

タニウツギ の 民俗と方言

梅田 始

先日(6月16日)の入広瀬村の田代平から小松峰にかけて歩いてきた。山の若葉の色艶が一層増し、ヤブデマリやツルデマリの白い花房が山裾を鮮やかな色彩で彩っていた。山道の両側には、あでやかなピンクの花をつけたタニウツギが咲き乱れ、残雪の山に初夏の訪れを告げていた。

自然暦というものがある。文字で書かれた暦でなく、自然の移り変わりを目安にし、生活の折り目、生産、生業の作業手順を示すいい伝えの暦である。例えば、春山の残雪がスジマキ入道の形になったらスジ(種蒔)蒔きとか、マメマキドリが鳴いたら豆蒔きなど、天候から動物、鳥や虫などいろいろ伝えられているが、なかでも植物の言い伝えは数多い。「コブシの花が多く咲くと豊作」「マンサクの花がたくさん咲くと上作」など花によって豊作を願ったものや、木々の芽ぶきから若芽が若葉へほぐれていく時を「スズメカクレ」などといって、スズメが枝にとまってもいっとき、若葉にかくれて姿が見えなくなる頃を言っている。また、カラスガクレなどもいう。

「柿の若葉のスズメカクレに麻の種蒔き」「サワギリの木の若葉のカラスガクレに蚕をはく」「カテバナが咲いたら田植」などといって、田植や種蒔き、蚕をはく目安にした。

山野や谷筋、荒地や水辺など、各地にごく普通に見られるタニウツギがカテバナやズクナシ、カジバナなどの多くの方言と共に広く農作の目安となり、また禁忌として長い年月の間に伝承されて行く過程で、その意味や表現がいつの間にか変わって行ったものもある。

農耕の技術や生産意識の変化によ

って、村の年中行事がかえりみられなくなり、モンビモノビ、メイゲツなどの言葉は死語と化そうとしている。また、農作、特に稲作儀礼の古い民俗が消滅してしまっており、自然暦の伝承も消滅しようとしている。先祖が長い間、伝えてきた植物に対する言葉を記録して行くことも植物保護の一つではないのかと思いタニウツギの俗信を書いてみた。

タニウツギの俗信で多く伝えられているのは農作に関するものだが、信仰に関する禁忌や火に対する禁忌も多い。花の色からの連想と思われる「朱鷺の脛」や子供の遊びからのものもある。また、食料としての方言が多く残っているのは、それだけ大切な植物であったからではないだろうか。採集したものの中には、各地に共通したものも多いが、同一市町村でも部落や伝承者によっての相違や、同一のものでもヒバシギなど意味の違うものに使い分けられた場合もある。

いくつかに分類してみたが、農作、食、聖と不浄などに大別できるのではないだろうか。

かつての人々の生活には、ハレの日「年中行事、祭りなどの特別の日」とケの日「普段の日」があり、特別の日はご馳走を、日常ふだんはごく質素な食事をと、一年を通じて食生活にはリズムとメリハリがあった。普段の日は雑穀やカテメシを常食にし、出来るだけ米を浮かせようとしたものだった。

蒲原地方に伝わる子守唄の一つに「ネンネコヤ、この子がねったら、なにくろば、あったけマンマに、トトかって、さっくりさくりと、されこましょ」という唄がある。かつての幼い子守っ子たちにとって、白いご飯と魚は特別の、そして最高のご馳走だったのである。また、夏大根の収穫期になると、学校へ行く子供たちは塩をまぶした切り大根を持って行き、弁当代わりにした時代もあると安塚町で聞いた。

このような時代の中で食べられる

山野草や木の実、若葉は大切な食料だったのである。タニウツギの若葉は日常のカテとして、また飢饉の時の大切な食料として保存されて来たものである。山村の旧家などでは今でも、いつの時代かに保存されたタニウツギの若葉が発見されることがある。タニウツギは若葉をよく干して臼で搗き、米粒程とし、これを水に浸して蒸し、干して二重俵に入れて火棚や屋根裏に上げておけば、何年たっても味は変わらなかったという。食べる時には煮て水気をしぼり飯にのせたという。同じようにして食べる物にリョウブの若葉がある。

日常と非日常、生者と死者を隔てる箸などとして使用されて来たこと



1991年5月11日 鳥坂山

により「聖なるもの、大切なるもの」忌み、慎むかという目的が忘れられ、その意味や表現が「悪しきもの」と、いつの間にか変わり、単に「してはならない」と変化して行ったものであろう。

記録によればウツギは桜、椿、ツツジなどと同様に呪法に使われ、卯杖、卯槌として邪悪な土地の精霊を追い払う役目で、初春に地面を叩き、その上で小正月の皐月祝いの行事をやり、卯月にもう一度、田植えの予祝行事をやったとある。これなども一つの示唆になるのではないだろうか。

ズクナシという言葉については「全国方言辞典」によると、1、いくじなし、2、怠け者、3、ぶしょう者、4、だらしない者、5、不器用な者、と五つにわたる各地の用法が示されているが、この言葉とタニウツギのズクナシがどう結びつくのかはわからない。どなたか御教示いただければ有難いと思っております。

タニウツギ方言一覽

方言名	註	採集市町村名
ウツギ		相川、村上、荒川、水原、安田、新潟、亀田、新津、五泉、村松、津川、加茂、三条、長岡、見附、栃尾、川口、広神、入広瀬、大和、六日町、塩沢、分水、寺泊、柿崎、吉川、川西、津南、安塚、能生
ズクナシウツギ		五泉、田上、加茂
ヤマウツギ		三条
ウツギンキ		松代
ハナウツギ		相川、弥彦
ウツギッパ		六日町
ウツグイ		三川
ウノハナ		西山、山古志、川西、安塚
ウノハナノキ		見附
ズクナシ		山北、朝日、村上、関川、荒川、黒川、加治川、新発田、笹神、水原、安田、三川、津川、上川、村松、五泉、新津、横越、亀田、新潟、相川、白根、田上、加茂、三条、燕、下田、見附、栃尾、弥彦、分水、寺泊、西山、松代、能生、中条、鹿瀬
ジクナシ		村松、五泉、西山
ズクナシバナ		加茂
ズクナス		中条
ズクナシノキ		新潟、小須戸、見附
農作に関する名前		
サオトメバナ	早乙女花	山古志、栃尾、長岡、三島、出雲崎
ソオトメバナ	早乙女花	松代
タウエザクラ	田植桜	長岡、山古志、高柳
タウエサクラ	田植桜	長岡
タウエバナ	田植花	糸魚川、新井、吉川、安塚、松代、松之山、十日町、山古志、長岡、栃尾、西山、出雲崎、五泉、村松
サツキバナ		長岡
スジマキザクラ		山北、朝日、神林、関川、長岡
サツキサクラ		長岡、栃尾、山古志
マメマキバナ	豆蒔き花	新井
タアエボチボチ	田植が初まる頃に咲くから	松代
タウエボッチ		松代
カイコバナ	蚕花	高柳
漁に関する名前		
イワシバナ	鱒花	相川、山北、中条、岩室、寺泊、出雲崎、柏崎、高柳、長岡
カブシバナ	カブシとは魚のこと	相川(佐渡全島で言われるとか。未調査)
食に関する名前		
カテバナ	若葉をカテとして食べた	長岡、栃尾、山古志、広神、守門、出雲崎、下田
カテノキ	以下同	加茂、下田、栃尾、長岡

カテノハナ
カテノハ
カテ
ゾウツバ
ドウバ
ドオツバ
ドツバ
ロウツバ
ロッパ
ゾウバ
ロウツバ
ゾウパツナ
ガザノハナ
ゴツバ
ガシャツバ
ガンザ
ガザ
カザ

禁忌に関する名前

ソーシキバナ 葬式花
ホトケバナ 仏花
ホネヒロウハシ 骨拾う箸。焼場で死者の骨を拾った。
ヒバシギ 火箸木。焼場で死者の骨を拾った。
ゴカン
ゴクウン

火に関する名前

カジバナ 火事花

クワジバナ
クワジノハナ
マッチバナ

動物、鳥、虫に関する名前

ウマオトシバナ 馬落し花。
この花を家に持ってくると、
馬が沢などに落ちる。
ウシコロシ 牛殺し
ドウノスネ ドウ（トキ）の脛に似ているから
以下同
ドウツツネ
ドンスネ
トウノスネ
ドツツネ
ダニバナ 木にダニがよくつく。

村松、加茂、栃尾、長岡
入広瀬、
入広瀬、広神
刈羽、西山、長岡、川口
川口
長岡、栃尾、柏崎
長岡
長岡、栃尾、山古志
長岡、川口、広神、大和
高柳
西山、刈羽
長岡
柏崎
出雲崎
見附、栃尾
山北、長岡
山北、長岡、西山、柏崎
長岡、西山

鹿瀬、妙高高原
妙高高原
妙高高原
柏崎、寺泊、巻
塩沢、湯沢
湯沢

荒川、中条、加治川、新発田、水原、安田、津川、新津、五泉、村松、加茂、弥彦、分水、栃尾、長岡、山古志、川口、堀之内、広神、守門、入広瀬、湯之谷、塩沢、十日町、津南、松之山、松代、安塚、柏崎、柿崎、刈羽、西山、出雲崎、小国、妙高高原
西山
柏崎
十日町、川西、中里、津南、松之山、松代、安塚

川西

見附
六日町、高柳、柏崎、刈羽、西山

六日町

川西

柏崎

六日町

津南、妙高高原、能生、糸魚川

アリゴバナ	蟻	松之山
ダンジロバナ		松代
ウジコロシ	便所に入れて使用した。	塩沢、津南、新井
子供の遊びに関する名前		
センソウボウ	戦争棒。子供が戦争ごっこをして遊んだ。	加茂
カタナンキ	刀の木。子供がチャンバラをして遊んだ。	松代
シャボングサ	子供がママゴトをして遊んだ。	柏崎、六日町
スモウバナ		十日町、松之山、松代
その他の名前		
オコリバナ	オコリ (マラリア)	松代
シンノゴイッパ		松代
ヤマザクラ	山桜	新津、新潟
タデ		村上、水原
カマノエ	鎌の柄	新潟
バアチャン	婆ちゃん	新潟
ヒバシギ	火箸の代用とした。	柏崎

タニウツギ俗信一覧

農作に関する俗信

カテの木の花が多く咲くと上作。	採集市町村名
ウツギの花がたくさん咲いた年は作がいい。	長岡
ウノハナがたくさん咲くと作がよい。	川西
カテノキの花に肥し負い。	安塚
ズクナシの花ざかりは田打ち。	栃尾、長岡
カテの花が咲くと、シロシが盛り。	栃尾
スジマキザクラにスジマキ。	加茂
ドンスネの花が咲くまでは、田植えはするな。	長岡、関川、神林、朝日、山北
タウエザクラが咲くと、田植えが始まる。	川西
ドウノスネが咲くと、田植えが始まる。	高柳
ゾウバが咲くと、田植え始めとなる。	高柳
サツキバナにサツキ。	高柳
ウツギが咲けば田植えどき。	長岡
カテバナの咲く頃には田植え。	六日町
カジバナの咲く頃には田植え。	出雲崎
ゴーッパの咲く頃には田植え。	出雲崎
タウエバナの咲く頃には田植え。	出雲崎
タウエバナに田植え。	出雲崎、吉川、糸魚川、長岡、栃尾、村松
タウエバナが咲いて田植え。	栃尾
カテバナが咲いて田植え。	栃尾
サオトメバナに田植え。	長岡、三島、出雲崎
タウエザクラに田植え。	長岡、山古志
サツキザクラに田植え。	山古志
ロウッパが咲けば田植え。	山古志、長岡、栃尾
ズクナシに田植え。	加茂
サツキバナに田植え。	長岡

カテバナに田植え。

長岡

ドッパの花に田植え。

長岡

ドウッパの花に田植え。

長岡

カジバナに田植え。

長岡

ズクナシのさかりは、サツキのさかり。

黒川

畑の早生物は、山のウツギの花の咲く頃に蒔くとよい。

六日町

ドウパの花の咲く頃、綿の種を蒔け。

川口

ドウッパの花のつぼみがついたら、綿の種蒔き。

川口

ロッパの花にササゲ蒔き。

長岡

ドツネが咲けば豆蒔き。

六日町

小豆はウツギの花の咲く頃に蒔くとよい。

六日町

マママキバナに豆蒔き。

新井

カテの花が咲くと、蚕が出る。

長岡、栃尾、村松

ズクナシはお蚕様が嫌うので、家に持ってくると悪い。

三川

ウツギの花を家に持ってくると悪い。蚕が死ぬ。

入広瀬

ウツギの花は蚕に毒だから家に入れない。

大和

ウツギを家に持ち帰ると、ボコ様（蚕）に虫がつく。

六日町

ドツネの花を家に入れると、蚕が死ぬ。

六日町

ヒバシギの花を家に持ってくると悪い。蚕が嫌うから。

柏崎

ダンジロバナを家に持ってくると、蚕が死ぬ。

松代

ダニバナを家に持ってくると、蚕が嫌う。

能生

山野に関する俗信

カテバナが咲くと、ゼンマイの盛り。

栃尾、下田

カテバナが咲くと、ワラビが出る。

栃尾、下田

ズクナシ満開、ワラビのさかり。

黒川

ズクナシの花ざかりは、ワラビの盛り。

下田、三条、新潟、五泉、村松

ロッパの花が咲くと、ワラビの盛り。

長岡

ドウパのさかりは、ワラビの盛り。

川口

ウツギの花ざかりは、ワラビの盛り。

広神、吉川

ウツギの花が咲くと、竹の子が出る。

大和

カテバナのさかりは、山竹の子の盛り。

栃尾

ウツギはタケノコのさかりに咲く。

妙高高原

漁に関する俗信

イワシバナが咲くと、鰯がとれる。

山北、中条、岩室、長岡、寺泊、出雲崎、柏崎

タウエバナが咲く頃は、鰯がとれる。

出雲崎

カテバナのさかりは、鯛と鯖がうまい。

出雲崎

ズクナシがさくと大漁。

寺泊

イワシバナが咲くと、春の鰯漁が終りになる。

柏崎

イワシバナが咲くと、浜で鰯がとれる。

中条

ウノハナが咲いたら、鯉を産卵させよ。

山古志

禁忌に関する俗信

ズクナシの木は人間と仏様の間をとりもつ木なので、

加茂

家に持ってくると悪い（死者の骨を拾う木だから）。

ズクナシは土葬の時、墓の上に立てる木だから、

加茂

家に持ってくると縁気が悪い。

ズクナシは葬式の時の箸にするから、取ってはならない。

加茂

ズクナシの花を仏様に上げると、ズクのない子（意気地の

村松

ない子）が生まれる。

ズクナシの花を仏様に上げると悪い。

関川、村松

ズクナシの花は、仏様に上げるものではない。

カブシバナを仏様に供えると悪い。

ウツギの花は、仏様に上げると悪い。

ウツギはゴカンといって仏様に上げると悪い。

イワシバナを仏様に供えるのは悪い。

お盆の箸は、ズクナシで作るものだ（仏様に上げる箸）。

ズクナシの花にさわるとズク（能力）無しになる。

ズクナシの花を家に持ってくると悪い。

ズクナシを屋敷に持ってくるな。

ウツギの花を屋敷に植えると不幸がある。

ズクナシを家に持ち帰るな。

ドウバの花は、家に持って来るんじゃない。

ウツギの花を家に持ってくると悪い。

ゴクウンの花を取ると、悪いことがある。

ウツギを家の中へ入れると悪い。

火事に関する俗信

カジバナを家に持ってくると火事になる。

ウツギの花を仏壇に上げると、その家が火事になる。

カジバナをノノサン（仏様）に上げると火事が出る。

タウエバナを家の中に持ちこむと、火事になる。

カジバナを取ると、火事になる。

ロッパの花は火事花と言って、取れば火事が出る。

ウツギを家に持ってくると、火事になる。

ズクナシの花を家に持ってくると、火事になる。

ズクナシを家に持ってくると、火事になる。

カジバナを家に持ってくると悪い。

カジバナは家に持ってくるものではない。

カジバナを家に持ち帰るな。

カジバナは庭に植えるな。

その他の俗信

ウツギは田畑の境木として植える。

ウツギの木は、鎌の柄とする。

木釘はズクナシで作る。

ヒバシギは年の暮に、山から沢山取って来て、

一年分の火箸を作って使う。

ウマオトシバナを家へ取ってくると、馬が沢などに落ちる。

ダニバナはうちへ持って来んな、ダニくつつく。

タウエバナのタマ（花）の中には、タンジロウという虫がいる。

ウツギの花は、ウジ殺しとして、便所に入れる。

ウツギの花が咲けば、水あぶり。

ウツギの花を持っていれば、水におぼれても沈まない。

切花にしても、水あげがきかないズクのない花だから、ズクナシという。

ズクナシは瘦地に生える木だ。

黒川

相川

六日町

塩沢

高柳

村上

山北

黒川、五泉、村松

新発田

寺泊

寺泊

川口

広神

湯沢

安塚

荒川、中条、新発田、水原、新津、五泉、村松、加茂、弥彦、川口、堀之内、広神、守門、入広瀬、湯之谷、十日町、松之山、松代、安塚、柿崎、妙高高原、柏崎、刈羽、西山、小国

安塚

柏崎

出雲崎

長岡

長岡

水原

三条、村松

能生

加茂、水原

塩沢

柏崎

柏崎

新潟

新潟

相川、朝日、村松、加茂、妙高高原

柏崎

川西

妙高高原

吉川

塩沢、津南

栃尾

村松

新潟

村上